

よさのうみ福祉会 広報誌

きょうと福祉人材
育成認証制度



2019年
9月1日
No.111

福祉よさのうみ

〈発行〉社会福祉法人 よさのうみ福祉会 〒629-2314 京都府与謝郡与謝野町字岩屋600-6 TEL 050(3532)0601 FAX 0772(43)0606

障害のある人のゆたかな地域生活の実現を! URL <http://www.yosanoumi-fukushikai.or.jp>

2019 みんなでつくる音楽会に参加して ～3つの事業所で力をあわせて～



仲間の「一生懸命が 」に繋がって

峰山共同作業所 支援員 藤岡克彦

「2019 みんなでつくる音楽会」が7月7日に峰山総合福祉センターのコミュニティホールで開催されました。今回は仲間の「よその作業所と一緒に歌ってみたい」という言葉がきっかけとなり各事業所の仲間の自治会が連携し、峰山共同作業所・みねやま作業所・ゆうゆう作業所で団結し、「SUN さぎょううず」という団体名で参加しました。これまでみねやま作業所、峰山共同作業所は個別に参加していましたが、ゆうゆう作業所は初めての参加です。仲間38名・職員9名合わせて47名の大所帯になりました。その他18団体の出演者や観客で会場内は超満員でした。

歌う曲は仲間が選んだ「365日の紙飛行機」と「栄光の架橋」。6月の中旬から各事業所で自治会が中心となって毎日昼休みに歌の練習をおこない、合同練習も2回おこないました。目標は8月31日の「2019京都府民音楽会」への出場!さらにはその先の11月の「2019年日本の歌声・京都」出場にも心に秘めた闘志があります。

初めての参加者も多く、リハーサルでは緊張気味でしたが、本番ではそんな心配を吹き飛ばし、日頃の実力を発揮し、3事業所が一体となった歌声を披露しました。「力強い歌声と効果的な伴奏とで会場の盛り上がりを感じました。舞台と客席の繋がる演奏でした。」と素晴らしい講評もいただき、見事「2019京都府民音楽会」の推薦を受けることができました。そして現在が次の目標に向かって練習に励む仲間たちです。

みねやま作業所余暇支援

みねやま作業所
管理者 村上健一

仲間の作業所以外の時間

(土曜日・日曜日・祝日)の充実をめざして

みねやま作業所では2015年3月より、作業所がお休みの日に「余暇支援」と銘打ち仲間が楽しめるいろいろな取り組みをおこなってきました。

背景としては作業所開設から35年が経過する中で、ご家族が仲間を支える機能が低下するケースや一人暮らしになった仲間の増加があります。作業所が開所している時は作業所で働いたり給食を食べたり、楽しい取り組みをしたりできますが、休みの日は有意義に過ごす以前に、食事の心配をしなればならない仲間も多くなってきました。

休日の前日には班ごとに多くの仲間と車でお店に出かけて、休み中の食料の買い出しをします。ホームヘルプの家事援助やガイドヘルパーを利用して仲間もいますが、利用時間に制限があり十分とは言えません。作業所の休み明けには職員に「休みは何をしていた?」と聞いてくる仲間もいて、多くの仲間が休みを持て余している状況がわかります。

もちろん自分で計画を立てて買い物に行ったり、野球観戦に行つ

たりする仲間もいますがごく少数です。

作業所は今日まで、基本的に日中(平日)の就労・生活保障を中心におこない居宅支援はヘルパー事業所が担当してきましたが、それだけでは力不足な部分がある部分に顕在化してきています。仲間の就労を含めたすべての生活を365日、24時間の視点でとらえる努力と、現在ないサービスは実践を通してつくり上げる手法が大事だと思っています。

仲間の日中事業所の年間利用日数は269日(うるう年は270日)ありますので、最大限の支援をしていきたいと思いい「余暇支援」をスタートしました。



海星公園

職員手づくり弁当「おいっす、おいっす」の声

最初は仲間が集まるかな?とか、職員が参加できるだろうか?と心配



福知山動物園

職員手づくり弁当

配しましたが、2015年の第1回目(福知山三段池・動物園遠足)は仲間32名、職員7名で楽しい取り組みになりました。参加費はできるだけ抑えたいとの思いがあったので、お昼のお弁当は職員が早朝から手づくりしました。余暇支援の職員は超過勤務対応となりますので、参加人数もできるだけ合理的に決定しました。その分一人の職員にかかる負担は大きくなりますが、早朝からつくったお弁当を「おいしい、おいしい」と食べてくれる仲間の声に元気が出ました。仲間の好きな、ウインナー、カラアゲ、卵焼きなどをいっぱい入れました。みんなで食べるおやつも少しだけでしたが美味しかったです。

その後も、基本月に一回のペースで福知山のプラント3へ買い物、宮

津水族館、丹波自然運動公園、経ヶ岬灯台、八丁浜海岸、但馬空港、コウノトリ公園、スイス村、大江戸バイキング、海星公園等へ出かけました。また、作業所の中で縁日模擬店、カラオケ、ビデオ視聴をおこないました。食事は毎回職員が早朝から手づくりしています。職員の努力の量に応じ仲間の喜びも大きくなります。

長岡ホーム主催日中事業所連携余暇支援

今年度からは「長岡ホーム主催日中事業所連携余暇支援」として、ホームの余暇支援を行い、作業所職員の参加協力を呼びかけて実施しています。

本来は「余暇支援」は作業所が休みの日におこない、日常の作業所場面とは違う仲間の様子や喜びを引き出すものだと思います。その意味では、日常の作業所職員とは違う職員が対応するのが良いとも思いますが、仲間の支援方法や対応、職員確保の問題からいつもと同じ職員が対応しています。

これからの課題の一つだと思います。



宮津エネ研

職場定着促進のための在職者の交流活動

職場定着促進のための在職者の交流活動とは

障害者就業・生活支援センターこまち（以下、こまち）では、障害のある方の求職相談や職場定着支援をおこなっています。職場定着支援の一環として「職場定着促進のための在職者の交流活動（以下、交流会）」を年に4回実施しています。参加いただく対象は、こまちの登録者で企業に就職をされている方々です。

交流会は「職場で生じるさまざまな課題をテーマとしたグループワークや勉強会、レクリエーションを通じて、参加者同士が仕事で頑張っていることや悩みなどの意見交換をする」「職場不適應を早期に把握することや職業生活上の課題を解決する」ということを目的としています。

参加する方は「他業種の人と交流したい」「この時にしか会えない友達と会いたい」「ひとりでは外食に行けないのでそれが楽しみで参加している」と言われます。職員は参加者の職場の話を聞いたり、顔色、体調等心配なことがないかそれとなく様子を見ます。

今年度の取り組みは、7月『防災講習会』、10・11月『外食交流』、

3月『生活に役立つ学習会（仮）』を予定しています。以前は救急救命やサービスマナーの講習も実施しました。

防災講習会のようす

前回の交流会で防災に関するアンケートをとりました。最近大規模自然災害が多く、当地方も豪雨、水害等に見舞われ、避難指示が出るようなこともあります。わからないことも多く、いろいろな知りたいうという要望が多く、今回の防災講習会の実施となりました。

7月28日、京丹後市消防本部の講習室で、前半は京丹後市総務課職員さんによる講義、後半はスモーク体験や水消火器を使用した消火体験をおこないました。

講義の中で『自分の命は自分で



講義を熱心に聞きます

守る』という最大のテーマを確認した上で、「障害があることから、避難場所ではプライバシー保護や障害（病気）の配慮はしてもらえるのか」といった質問も出ました。担当職員さんからは「命優先でできるだけの配慮はしたい。ただ、地域の避難場所の設置はおこなっているがハード面のさらなる充実はこのからの課題です」といった回答があり、地域としてできる準備、私たちがすべき準備についても考えさせられました。



スモーク体験中

良い取り組みをつづけていくために

こまちがスタートした2010年度から交流会を実施しており、その頃から毎回参加をしている方もあれば、新たな顔ぶれもあり、年々参加者は増えています。交流会の人気イベントは外食交

障害者就業・生活支援センターこまち
相談員 佐々木 清高



水消火器で訓練

流で、参加者は多い時で約50名。この大所帯で実施することが難しくなっており、地域を限定しての呼びかけ（例えば京丹後市在住の方を対象として…）をおこなっています。

もっと遠出がしたい、1泊旅行にも行きたいという要望も以前からあります。ただ在職者の活動ということで全額自費負担で参加をお願いしている関係で、大がかりな行事になると費用面で頭が痛いことは事実です。

ですが、工夫を重ねて今後またくさんの方にご参加いただき、職場の悩みを軽減しながら、参加者同士の交流がより深まる取り組みを実施していきたいと思っています。

ベトナムオレンジ村視察ツアーに参加して

リフレかやの里
支援員 谷垣 吉信

8月2日から5日までベトナム（ホーチミン市）へのオレンジ村現地視察に参加させていただきました。ベトナムには障害者に対する治療・リハビリ・職業訓練・療育等をおこなう総合施設がほとんど無く、施設の建設をめざしている「オレンジ村支援日本委員会」という支援団体の一員として参加しました。

施設の中では農業事業も同時に進められる予定で、私はリフレかやの里ハウス班支援員をしていますので、農福連携（農業と福祉の連携）の現場支援員として今後の農業支援のための勉強も兼ねていました。

ベトナム
『人間の健康に枯葉剤と原爆の影響』

（現地参加10名、ツアー70名参加）

ベトナム戦争では枯葉剤が大量散布され、表向きは虫を駆除するということでしたが、実際は森林をなくし、同時に食物を育てる土地も破壊する毒性の強い薬剤の散布でした。戦争が終わって約50年が経ちますが、今なお枯葉剤の影響で2世代、3世代、4世代にも、



枯れ葉剤跡地

癌・心臓病・糖尿病・奇形の子供が生まれているそうです。

研究者からは、枯葉剤の中に含まれるダイオキシンの影響で土壌（地下）や人間の体内が今なお汚染されており、地下水を飲む母親から母乳を通して子供への影響が続いているという研究発表がありました。

ベトナム全土に枯葉剤を散布されたのではなく、地域限定でありベトナム全ての土壌が汚染させているわけではありません。



シンポジウム会場



ドクさん講演

また、被爆証言人として、長崎県で被爆された木村さんが、被爆当時の様子、被爆してからの生活、癌により子供を亡くした経験を発表されました。

シンポジウムの中で、日本でもよく知られている「ベトちゃんドクちゃん」のドクさんが講演され、ベトナム戦争を多く知ってもらおうよう活動をされていること、日本に行き障害者施設を見学し勇気づけられたこと、日本の支援に感謝していることを涙を流して話をされました。

戦争博物館見学



戦争博物館 物品販売

チャイルド・フォー・ユース

ベトナム戦争当時の写真や奇形児写真の見学をし、職員と障害者が物品販売をしておられました。ベトナム語であまり理解できなかったのですが大きな声で商品の説明や金額を言われていました。（後から通訳の方に聞きました）



コンサート（障害者と太鼓演奏）

日本から行かれた、障害者によるプロの太鼓「龍鼓未来」の4名（知的障害2名、視覚障害1名、ダウン症1名）の皆さんがオペラハウス会場の中で堂々と演奏されました。迫力ある演奏中には涙して聞き入る方もありました。

キークワン寺



キークワン寺 障害者預かり

キークワン寺では、親が貧しく育児ができない子供や障害者を預かり養育されています。子供部屋は8部屋ありましたがほぼ満室でした。また病気にかかった方への漢方無料配布もおこなっています。が、配布を待つ大人も行列ができていました。どのように運営されているのか尋ねてみると、全て寄付で運営されているとのことでした。

まじろ

今回のツアーは短期間でしたが今まで知らなかったバトナム戦争のこと、枯葉剤の影響、障害者施設がほとんどないこと（あるが国の補助がない）、等多くを学ぶことができました。

農場や周辺の農業栽培等を直接見学できなかったのは残念ですが、現地の気候、風土、食事を体感し、使われている食材、調味料についても日本との違いを感じました。農地整備や河川整備がされていないこともわかりました。今後私の担当する農業支援では、現地の担当者によく話しあい、要望を聞き、また市場調査をして、売れる農作物を作っていくたいと思っています。そしてそのためには、日本と同じようにはいかないことを理解した上での農地整備、資材の調達等が必要となり、これからの課題がたくさん見えてきました。



農業の人手不足解消へ 助っ人します!! 福祉作業所「黒豆えだ豆袋詰め作業代行」

リフレかやの里
管理者 藤原さゆり



農民連・京都産直センター（亀岡市）より、京丹後市久美浜町の農家さんが人出不足で困っておられると相談を受けました。

きようと農福連携センター北サテライトの業務として、丹後管内の福祉事業所に作業の案内をし、説明会に参加を呼びかけました。6月25日の説明会には6事業所の参加があり、実際には、その中からかがやきの杜、みねやま作業所、みやづ作業所、すまいる、リフレかやの里の5事業所が作業に取り組みました。

1日1,400袋をやりきる!

4事業所で協力して、7月16日～7月31日の間（日曜日は除く）、毎日1,400袋をやり遂げることを目標に取り組みました。

7月26日、7月27日は、豆の生育



黒豆袋入れ作業

の都合で、作業はお休みとなり、延べ12日間、毎日1,400袋を納品することができました。

生産者からは、「人手不足の中で、袋詰め作業を手伝ってもらったことで、その分自らは次の作業への準備ができて助かった」と感謝されました。

福祉事業所では、「日がたつにつれて作業スピードが上がり、目標としていた数量をやり遂げた達成感を利用者自身が感じられ、意欲につながった」と感想が出されました。農業は、多くの工程があり、特に出荷作業の人手不足が言われ

ている状況の中で、農福連携が進むことが求められており、今回の取り組みが成功事例として今後につながることを期待できます。



くろ豆 えだ豆



2019年度法人内事業所ツアー

みねやま作業所
支援員 熊崎 正司

新築の「ホームすみれ」

2019年7月12日に法人内事業所ツアーが3年ぶりにおこなわれました。法人事業所の全体像を把握し、法人の歴史から運動の大切さについて理解を深め、職員交流の場とすることを目的として実施されました。忙しい中、各事業所から13名の参加者がありました。よさのうみ福祉会のほぼ全ての事業所を1日で回り見学を終えましたが、改めて法人規模の大きさを感しました。

各事業所の見学前には、マイクロバスの中で青木理事長から事業所の立ち上げられた経緯などの説明があり、それぞれの事業所の重みを感じ、法人の長い歴史や地域の中での大きな役割についても学ぶことができました。

各事業所においては、施設の現状や課題などの説明を聞き、事業所の特徴を自分の事業所と比較しながら聞くことができました。そして、それぞれの働く場や暮らし

の場できいきとした仲間の姿を見ることもできて有意義な研修となりました。

研修参加者の好評につき、第2回目の事業所ツアーが9月下旬におこなわれる予定です。

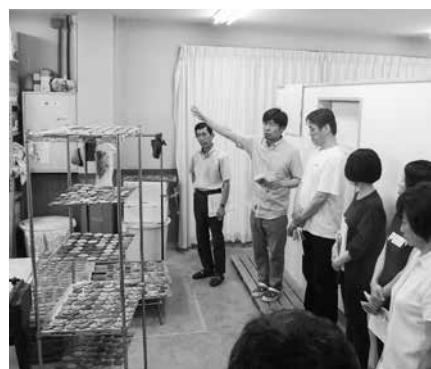
参加者の感想(抜粋)

●他の事業所に行く機会がなかったため、所属事業所を基準に考えることが多くなっていました。他の事業所を見ることができ、法人全体を深く知ることができました。この研修を通して所属している事業所で活かせるものを発見しました。所属している事業所を客観視することで気付けない点にも気が付くことができました。

●百聞は一見に如かず。実際に現場を見ることが、よくわからなかったことも理解できました。

●各事業所では様々な障害に応じた工夫をされていました。障害の特性を理解し、それに応じた職場になるように、目の前の仲間の支援の適切化、環境整備の重要性を感じました。

●親御さんのわが子に対する思いや親の会が大きな役割を果たしたことを知りました。また地域の理解を得る努力や建設にあたったの

よさのうみ福祉会最北端
「ゆうゆう作業所」

苦労などの話を聞き、その結果として今の法人があると感じました。このたくさんの方の思いや願いをこれからも大切にしなければならぬと思いました。

●同じ法人内でも仕事内容の違いや、仲間と職員で作り上げられた雰囲気の違いをこの目で確認することができました。

●仲間の生活の場の保障と環境(老朽化)の整備が必須であると感じました。

●個々の果たす役割もあるけれど、一致した思い・計画・行動が大切であるということがわかりました。

●現在ある事業所はただできたのではない。職員の惜しみない努力がありました。その歴史を繋いでいく若い力として日々努力していきたいと思います。

●他の事業所の職員と関わることに少ないので、交流を深める場になりました。

親の心

子育て支援

みやづ作業所利用者家族

小倉 真由美

誰にでもフレンドリーな「佳祐」

大きく産まれたのにミルクもあまり飲めず、だんだんと体重も減って病気になるがちで入院の繰り返しでした。三ヶ月健診の時、ダウン症とわかり、ダウン症という名前も知らなかった私は本当にショックでした。

当時、養護学校のことばの教室に通ったり、舞鶴医療センター、療育教室、たんぼ保育園、栗田幼稚園そして与謝の海養護学校(支援学校)に通いだんだんとた



「ワークセンター 花音」

利用者・ご家族に支えられて

入職して、13年が経とうとして
います。その半分は支援員として、
よもぎの入浴剤づくりや重度
の利用者の方々への関わり、もう
半分は相談員としての相談業務、
約二年間の育児休暇という戦い
をはさみながら、これまで多くの
人達に支えられて、今日
も何とか仕事を続け
られています。

リレー随想



担当していた
利用者の誕生日
に皆で食べよ
うと慣れないお
菓子作りに挑戦
し、ようやく出来
たロールケーキを、
誰かのイタズラで川に
捨てられてしまい作り直した
こと、出産した直後に担当してい
た利用者のお父さんが「乳がよう
出るように持って来たったとお
う……！」と、自宅までタコを
持ってきてくれたことなどなど、
この原稿を書くにあたり、たくさ
んの思い出があることにあらた
めて気付きました。

来年よさのうみ福祉会は、40周

年を迎えます。設立当時のことは
話で聞いたことしかありません。
その頃とは、利用者も職員も事業
所の数も、障害福祉制度も世の中
の情勢も大きく変わりました。で
も利用者の「楽しく暮らしたい」
「美味しいものが食べたい」「好き
な仕事がしたい」「もっともっと
自分の話を聴いてほしい」、ご家
族の「毎日楽しく健康に過ごして
欲しい」「1日だけいい

（宮津）事業所支援者相害者

主 任 岩崎 充

から我が子より長生
きしたい」という
思いは設立当時
と変わらずあり
ます。利用者や
ご家族のたくさ
んの思いを日々
感じながら、支援
に悩み、もがき、汗
だくになることだけ
ですが、ガス欠にならないよ
うに、お酒をチャージしつつ、ゆ
っくりでもエンストはしない
ように、これからも利用者やご家
族の横で汗をふきふき、伴走出来
たらいいなと思っています。

次回は長岡ホーム
主任 西川 悟子です。

ご寄付御礼

みなさまからのご寄付、誠にありが
うございます。

2019年6月12日〜2019年8月6日
（順不同・敬称略）

田中清三郎・星 幸敏・黒田隆男・
日下部みはる

その他匿名でもたくさんのご寄付をい
ただいております。

編集後記

今年度、事業所ツアーが3年ぶり
に行われました。私も業務の中で、作
業所を訪問することがあります。
知らない仲間に「こんにちわ」と大
きな声で挨拶をしたらうと、やは
りうれしいです。

障害があっても仕事ができる環
境があるということは、とても大事
なことだと思います。障害のある方
が一般企業に就職しておられても
支援は必要です。企業を訪問して
話を伺うこともありますが、就職
者の交流会を通してみなさんに集
まっていただき、仕事の様子を伺
う中で、支援のヒントをいただくこ
ともあります。

映画や新聞から知る、優生思想
や、障害のある子どもを座敷牢に入
れて隠していた時代もあったなん
て驚きます。先日、参議院議員選挙
で、新たに重度の障害のあるお二
人の方が当選されました。お二人の当
選によって、本当の意味でのバリア
フリーがどこまで進められていく
のか、変えることができるのか、大
きな節目を感じています。「障害が
あっても当たり前」に地域で生きら
れる社会」の実現を目指したいで
す。（お）

くましくなって来ました。小さい
頃がうそのようです。

調子よくいついた生活もお
姉ちゃんの具合が悪くなり、佳祐
は寄宿舎で、お姉ちゃん入院と
なり、私は病院近くのサポートハ
ウスで、お父さんは自宅とみんな
がバラバラな生活が二年半続
きました。

お姉ちゃんがアメリカで移植
手術を受けることとなり、家族で
行きました。英語の世界……不
安でいっぱいでした。でも、佳祐
は言葉がわからなくても気軽に
声を掛けられるので私たちはドキ
ドキしながら見ていました。又、ポ
ランティアさんの紹介で障害を
持った子供達と一緒に一週間、劇
の練習をし、最終日に発表会
です。日本語を話す人は一人もい
ないのによく頑張ったと思います。
発表の中でアドリブなんか入れ
たりして、みんなを笑わせていま
した。本人が一番楽しんでいる様
子でした。終了後、日本に帰らず、
ここに残れと言われて嬉しそう
にしています。

帰ってから、ちょっと怖そう
な人が腕を怪我しているのを見
ると「大丈夫か？」と声を掛けて
「大丈夫やで」と言われると「大事
にしてよー」と伝えていました。
私なら絶対、声掛けしないのにな
い……と本当に思います。そんな
こと言わない方が良くのと思
うこともあります。良い所は伸
ばしてやりたいです。

そして、「自立してもらわな
い」と思っています。そのため
の手助けをしてあげたいと思っ
ています。

楽しくみんなで盛りあげた募金活動

ワークセンター花音

主任 内田 真奈美

8月24日やすらの里で「24時間テレビチャリティイベント」を開催しました。丹後福祉応援団が2003年から毎年参加されている読売テレビ「24時間テレビ・愛は地球を救う」の募金活動です。昨年まではショッピングセンター「ウイル」でされていましたが今年は「やすらの里」でおこなうことになりました。

ショッピングセンターでの活動なら、買い物客に募金を募ることが出来ますが、「やすらの里」での募金活動は、お客様を呼んでこないと難しい！とのこと、やすらの里全体でこの活動を盛り上げようということになりました。少しでもたくさんの人に集まっていたらこうと「24時間テレビチャリティイベントINやすらの里」企画委員会を立ち上げ、5月から企画を練り、広報、会場設営、駐車場依頼等細かく分担を決めて取り組みました。

当日は喫茶花音の駐車場からテラス全体を使って応援団のミニフリーマーケットや、5つのブースで一般の方が手作りのアクセサリーや小物、かき氷の販売をされ

ました。またステージ企画として「ほのぼの会」のみなさんがカラオケを熱唱され、「白帆会」のみなさんが大道芸で南京玉すだれやバルーンアートを披露され大人も子ども也大盛り上がりでした。

喫茶花音も満席、テラスでのポテトやから揚げの模擬店も大盛況でした。売り上げの一部を募金に回し、花音としても募金活動に参加できました。花音の利用者も何日も前から楽しみにされ、当日は休憩時間を利用して模擬店を利用したり、大道芸を観て盛り上がり、おおいにこのイベントを楽しむことが出来ました。企画、準備、当日と協力し合うことで法人同士の絆も深まり、来年につながる期待が高まりました。



花音模擬店

クリエイティブショップくりくり 開店から5年9か月

みねやま作業所

管理者 村上 健一



くりくり店内

京丹後市内の4法人10事業所が協力して取り組んでいるくりくりの開店から5年と9か月が経過しました。この間、障害福祉事業所が商業施設（マイン）内での商品販売を行うことの大変さを痛感しました。商慣行上では当たり前の事でも、私たちには戸惑うことも多くありました。また、食品の安全性や商品づくりでも改善や注意をしていかなければならないことも多く発生しました。その都度、私たちは真摯に向き合い力量をつけることができました。商品のブラッシュアップの取り組みも京丹後市や大学の協力を得ておこな

てきました。品評会も京都府の協力で京丹後市内のホテルでおこなうことができました。9事業所が、大変さはありますが協力してやって来られたことの意義は大きかったと思います。

VAVCAを 障害者の情報発信基地に

さらに今年度は、今までの商品販売に加えて事業所からの情報発信に力を入れることが総会で確認されました。各作業所の商品づくりへの取り組みの様子や使用している材料の説明、就労以外での作業所での仲間の輝いている場面などを広く市民に伝えていけたらと思っています。そのために一定の予算も付けて、専門のデザイナーに入っていたいただき店舗改装を今秋完成の予定で進めています。

今後とも、多くのみなさんのご来店とご協力をお願いします。



真剣な表情で検品するショップスタッフ